

平成29年度第2回多摩市一般介護予防事業評価委員会

要点録

平成29年7月27日

日時：平成29年7月27日（木曜日） 15時00分～17時00分

会場：多摩市役所第一委員会室

出席者：明石のぞみ委員長 田中千秋副委員長 内田達二委員 白井弘三委員

池田由美子委員 中村和代委員 丹羽雅子委員

大淵修一オブザーバー

欠席者：なし

事務局：高齢支援課 伊藤高齢支援課長 田島介護予防推進係長 水谷主任

鈴木主任、佐藤主事

健康推進課 五味田主査

保険年金課 田中主任

国土舘大学体育学部 永吉准教授

介護予防による地域づくり推進員 桐林理学療法士

公開区分：公開

傍聴者：1名

協議内容

1 介護予防・日常生活支援総合事業の評価について

(1) 事務局からの説明

- ・前回の資料3-2で総合事業の評価項目を示したが、今回の資料1では数値化とグラフ化を行なっている。アウトカム指標として新規認定者数等を他市比較しているが、これは厚生労働省の「見える化システム」を使って作ったものである。
- ・多摩市の認定率は、高い順で都内で62保険者中61番目、全国では1,579保険者中1,514番目と認定率が低い。
- ・「見える化システム」では年齢や性別の要素を調整し他市比較することもできるが、この場合も認定率は低く、要支援1～要介護2までの比較的軽度の認定率も低いが、要介護3～要介護5の重度の認定率が特に低い。

- ・65歳以上の高齢者が週1回以上通いの場に参加している割合は1.1%であり、全国平均と同じであるが、国の示す目標は10%とかなり高い。
- ・通いの場の設置箇所数は、多摩市の規模では140箇所が目標になる。
- ・通所型サービスCと地域介護予防教室の主観的健康感（利用開始前後比較）は、維持改善となった割合が通所型サービスCは75%、地域介護予防教室は81%である。
- ・その他に多摩市独自のアウトカムについては、フレイルを説明できる市民の数、週1回の地域活動等に参加している実人数、地域の集まりに担い手として参加している65歳以上の数を案としてあげている。
- ・多摩市独自のアウトカム指標についてどのようなものかご意見いただきたい。

（２）主な意見等

- ・地域包括ケアシステムを考えながら作っていくことが大事。通所型サービスCから地域介護予防教室につながる仕組みはよくできているが、このように介護保険や地域支援事業のサービスから地域介護予防教室のような通いの場につながった数や通いの場から介護保険につながった数が指標となるだろう。また生活支援サービスの団体数や移行した数もいいたろう。
- ・介護認定者数などの軽度化、介護度の高い人の推移等を大きくくりで評価するのは難しい。もう少し細かい日常生活度などを使って評価できた方がよい。
- ・要介護5など認定の重い方たちを評価するのは難しい。要支援1・2、地域支援事業対象者が、通所型サービスC等を使って要介護認定に至らないということは評価できる。また、一般介護予防事業の中で要支援1・2以上の方が参加していることも評価できる。
- ・週1回以上の通いの場の箇所数、参加者数を評価する際、その団体が体操を行なっていることを条件とする。

2 フレイル予防事業の検討について

（１）事務局からの説明

- ・前回の資料4と今回の資料2を使用し、前回の振り返りと、実施計画、実施案の確認をする。
- ・フレイル予防事業では、行動変容や気づきの場として健診を行なう。
- ・対象者はプレフレイル～フレイルの高齢者であり、フレイルチェックを実施するのは介護予防リーダーなどの市民や地域包括支援センター、委託先の大学となる。

- ・第1回検討チームでは、フレイル予防は、チェックを受けて太鼓判をもらうポジティブなものとして話し合ったが、虚弱な高齢者の把握をどうするかという課題もある。
- ・フレイル予防講演会の実施計画案としては、案1では国士舘大学の100周年記念行事とあわせて行なう（10/28または29に実施）、案2では日時を変更し検討チームのメンバーが出席できるよう3月ごろに行なうこととしている。
- ・測定会の案としては、ファーストチェックで歩行速度等を測り、セカンドチェックで基本チェックリストベースの質問をする、3段階目については会場が広い場所に限り行なうが、日常生活で取り入れられる体験コーナーを行なうこととしている。
- ・ファーストチェックの案としては、7項目が質問、3項目を測定としている。質問7項目は江東区を参考に作成している。

（2）主な意見等

- ・フレイル予防講演会の実施について、3月に行なう場合は、委員の予定を考慮のうえ、17日または18日の午後に行なうこととする。この場合、10月の国士舘大学の100周年記念行事は、チェックだけを行なうようにする。この予定は仮のものとする。
- ・口腔に関して、水分摂取量を問うこともできるが、どの程度飲んでいいのかイメージしにくい。具体的な品目を食べられるか聞くのがわかりやすい。せんべいなどの固いものは噛み砕くことはができるが、食いちぎるものは難しい。さきいかやたくあんが食いちぎられるか問うといいだろう。
- ・体重の減少を問う質問があるが、本当は減っているのにその認識がない人が多い。BMIで判断することもできるが、基本チェックリストの基準が18.5になってしまっている。多くの人に低栄養のリスクを意識してもらうには、21.5はほしいところだが、基本チェックリストの基準を変えることはできないので、BMIをファーストチェックで問うことは望ましくない。実際、スレンダーでも活動的な人もいる。毎日、肉、卵、魚、牛乳いずれか一つ以上を食べているか問うのがいいだろう。
- ・会場が小さい場合、イスに座った状態から立ち上がり3m歩行してまた座るTimed Up & Go (TUG) を行なえば、小スペースで行なうことができる。しかし、立ったり座ったりの動作は転倒等の危険を伴うことから、大きな会場が必要にはなるが5m歩行の時間を測る方が良い。
- ・動機付けのため、ファーストチェックに主観的健康感を入れる。
- ・もの忘れの質問については、もの忘れの自覚があるか問う主観的な聞き方と人から指摘

されるかなど事実を聞く方法がある。ファーストチェックでは、主観的なものにし、セカンドチェックでは基本チェックリストをもとに事実を問うものにする。

- ・社会性を問う質問については、仕事や趣味を含めない方がよい。退職したときのことや趣味は一人でもできるものもあり、社会性と知的能動性は別物。市内でボランティアや自治会に参加しているか問う方がよい。
- ・ファーストチェックで該当した項目がセカンドチェックで該当しないことも想定されるが、そのような場合でも意識付けや体験コーナーへの案内を行えるとよい。
- ・以上の意見を統合し、事務局提案のファーストチェック（案）を以下のように修正する。細かい言い回し等は次回会議で確認する。

①主観的健康感を問う質問を追加して、全部で11問の質問とする

②質問4の栄養状態を問うものは「肉・卵・魚介類・牛乳のいずれかを毎日食べていますか？」とする

③質問5の口腔機能を問うものは「さきいか、たくあんぐらいの固さのものを食べていますか？」とする

④質問7の社会性を問うものは「ボランティアや自治会等の地域の活動に参加していますか？」とする

次回会議（平成29年度第3回多摩市一般介護予防事業評価委員会）について

日時 平成29年8月24日（木曜日）15時00分から （2時間の予定）

場所 市役所301会議室（本庁舎3階）

内容 フレイル予防事業の検討について

— 了 —